白や明るいピンク、そして黄色という、淡い色のバリエーションが、現代ばらの特徴でもあります。

原ばら公園・鳥瞰図

日本にもあったばらの原種

「ばら」の話は万葉集や枕草子にも登場する、れっきとした大和言葉。「うまら」や「いばら」が転訛したのが「ばら」なのだそうです。

世界中で約２００種もあるばらの原種のうち、現在のばらに大きく関わったものはわずか8種といわれます。その中に、日本にも自生するノイバラとテリハノイバラがあります。前者は房咲き性を、また後者はつる性を後代に伝え、いずれ貴重な存在なのです。

ばらの品種毎に案内板を設置しています。品種名、欧文表記、作出国、作出者、作出年が表記されています。その他の樹木にも案内板を用意し、QR コードを表示してあります。